藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 72: 137–139, July 10, 2024

第 9 回アジア太平洋藻類学フォーラム（The 9th Asian Pacific Phycological Forum: APPF2024）開催記

小亀 一弘（LOC を代表して）

第 9 回アジア太平洋藻類学フォーラム（The 9th Asian Pacific Phycological Forum: APPF2024, Algae: Biodiversity, Evolution and Sustainable Development Goals (SDGs)） が，2024 年 4 月 14 日（日）から 18 日（木）に北海道大学の学術交流会館（札幌市北区）で開催されました。この国際学術会議は，アジア太平洋藻類学連合（Asian Pacific Phycological Association: APPA）が主催となり，3 年に一度行われてきたものです。前回の第 8 回 APPF は，2017 年にマレーシア（クアラルンプール）で行われました。日本では以前に，第 3 回 APPF が 2002 年につくば市で行われています。

APPF 2024 ロゴ

第 9 回 APPF を札幌に招致する話が始まったのは，2016 年の秋頃からでした。当時の APPA 会長であった川井浩史氏から，当時，北海道大学大学院理学研究院教授だった堀口健雄氏に第 9 回 APPF（2020 年）を札幌で行うことができるかどうか問い合わせがありました。堀口氏と小亀で，開催時期や参加者数を検討し，開催することができるとお返事しました。札幌での開催が正式に決まったのは, 2017 年にマレーシア（クアラルンプール）で第 8 回 APPF が行われたときでした。そのフォーラムでの APPA のカウンシル会議で，第 9 回 APPF（2020 年 9 月）を札幌に招致するために事前に準備したプレゼンテーションを行い，決定しました。

会場とした北海道大学学術交流会館の予約が 3 年前からだったので，2017 年 9 月には会場予約を行いました。2018 年 2 月には，（株）イー・シー（当時は（株）イー・シー・プロ）にサポートサービスを依頼し，準備を開始しました。日本藻類学会に共催となっていただき（後に，日本応用藻類学会にも共催になっていただきました），2018 年 3 月に行われた日本藻類学会第 42 大会（仙台）で，第 9 回 APPF（2020 札幌）の宣伝をさせていただきました。2018 年 12 月には懇親会会場（当時は札幌パークホテルを予定）を予約し，国内組織委員会（LOC）については，2019 年 1 月から組織を始め

メインホールでの集合写真

ました。プログラムに関しては，前回の APPF（2017）を参考として，プレナリー・レクチャー（3 名），ミニシンポジウム（15 件），一般口頭発表 90 題，ポスター発表 90 題，口頭発表 3 会場，発表実施 3 日間を概要としました。プレナリー・レクチャーやミニシンポジウムの企画について実際に動き出したのは，2019 年の春くらいからでしたが，もう少し早い方が良かったと思います。2020 年 1 月にはエクスカーションの行程内容を決定しました。2020 年の 2 月にウェブサイトで演題募集・参加登録を開始しました。しかし，その後，新型コロナウイルス感染症が拡大し，第 9 回 APPF（札幌）も開催延期としました。その後，オンラインでの開催も検討されましたが，APPA が対面開催を希望したため，2023 年 9 月の対面開催を目指しました。新型コロナウイルスの脅威が収まるタイミングを計るのが難しかったのですが，2023 年 2 月の登録開始時点で APPA から 1 年後の開催の提案があり，2024 年 4 月の開催となりました。4 月の開催は，会場の空き状況のためにそうなったのですが，日本では新年度の始まりであること，大学の学期期間中であることなどから，日本からの参加者におかれましては，予算や出張の都合をつけるのが難しかったかも知れません。一方，旅行シーズンから外れていたため，飛行機やホテルが安かったのは良かった点でした。また，延期の結果，新型コロナウイルスの影響の心配がほとんど無くなったことは幸いでした。

初日 4 月 14 日（日）は，受付とウェルカム・レセプション，15 日（月）はプレナリー・レクチャー（Jeong Ha Kim 氏），ミニシンポジウム，一般口頭発表，集合写真撮影，ポスター発表（奇数番号），APPA カウンシル会議，16 日（火）は，プレナリー・レクチャー（Wendy Nelson 氏），ミニシンポジウム，一般口頭発表，ポスター発表（偶数番号），懇親会（京王プラザホテル札幌），17 日（水）は，プレナリー・レクチャー（野崎久義氏），ミニシンポジウム，一般口頭発表，クロージング・セレモニー，ワークショップ（Women in Phycology），18 日（木）は，ワークショップ（Multiple Driver Research Workshop），エクスカーションが行われました。天気は良く例年と比べ暖かかったですが，エクスカーションの日は少しぐずついた天気でした。桜はまだで，キタコブシが咲いていました。

参加登録者は 19 の国 / 地域から 251 名（内，学生 90）で，その内，日本からは 73 名（内，学生 29）の参加でした。プレナリー・レクチャー（3 名），ミニシンポジウム（15 件），一般口頭発表（85 題），ポスター発表（79 題）が行われました。実は，早期登録期間が終わる頃でも 150 名ほどの登録しかなく，参加者が少なくなることが危惧されたのですが，最終的に当初期待した参加人数（230 名）を超える参加者となったのは大変喜ばしいことでした。

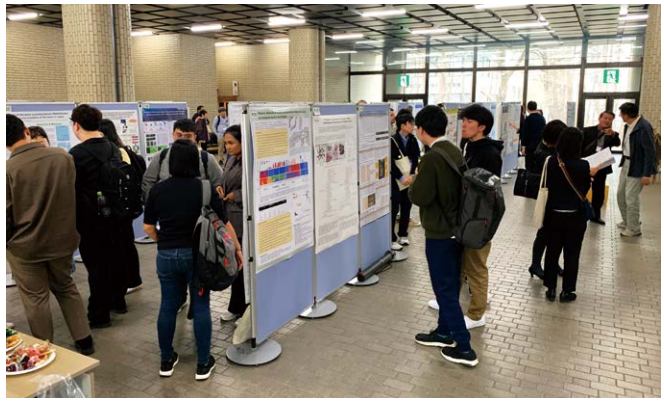
ウェルカム・レセプションは，フォーラムの会場で行いました。会場の使用規則では，食事は着席して行うこと，アルコール飲料は禁止ということでしたので，デリバリー料理を並べたバイキング形式で，着席，酒類なしで行いました。参加者は 100 名ほどでした。

口頭発表会場は 3 つで，発表者のパソコンをラインセレクターを介して接続してスライドを投影しました。次の発表者は，パソコンを接続ケーブルに繋いで待機することとしました。会場には，タイムキーパー 1 名，マイク係 2 名を配置しました。ポスター発表は，会館中央のホールで行いましたが，十分な広さがあったと思います。オンラインでの発表は，予算と労力を考慮して行いませんでした。一般発表では，口頭かポスターのどちらかで，1 人 1 題としました。登録時に口頭・ポスター・どちらでも良いから 1 つを選んでいただきましたが，口頭とポスターは全て希望通りで，どちらでも良いを選んだ方にポスター発表をお願いしました。プログラムの研究発表枠はほぼ埋まりましたが，お昼休み時間が 1 時間でしたので，1 時間 30 分にして欲しかったとのご意見がありました。

懇親会は，Kevin Wakeman 氏の司会で行われ，初めに，APPA 会長である Put Ang, Jr. 氏の挨拶と新 APPA 会長となる Jeong Ha Kim 氏の音頭による乾杯がありました。余興などは行いませんでしたが，皆さん，食事と会話を楽しんでいたようです。最後に，前 APPA 会長の川井浩史氏の挨拶と乾杯で会を終了しました。参加登録には懇親会は含まれず，懇親会参加申込は別でしたが，180 名ほどの参加がありました。

学生発表賞も行いました。エントリー制ではなく，学生による発表をすべて対象としました。対象となる発表の数が多かったため，口頭発表とポスター発表でそれぞれ 3 つのグルー

Jeong Ha Kim 氏のプレナリー・レクチャー



ポスター発表会場

プに，研究分野を考慮して分けました。各グループで 3 名の審査員（合計で 18 名の審査員）が発表の評価を行いました。エントリー制の方が対象発表数がかなり少なくなり，審査にかかる労力が少なくなるので，その方が良かったかも知れません。

クロージング・セレモニーでは，Gregory N. Nishihara 氏の司会で始まり，はじめに，APPA 会長の挨拶がありました。続いて，学生発表賞の受賞者の発表と表彰が行われ，受賞者に表彰状と副賞としてタオル昆布と賞金が授与されました。次に，APPA 新会長である Jeong Ha Kim 氏の挨拶と APPA 新 Treasurer 寺田竜太氏の紹介がありました。続いて，次期 APPF 開催地（ベトナム，2027 年）の紹介が Dang Diem Hong 氏からあり，IPC13（フィリピン，2025 年 6 月）の宣伝が Armin S. Coronado 氏からありました。最後に LOC を代表して小亀が挨拶を行い，セレモニーは終了しました。

エクスカーションには，36 名の参加がありました。バス 1 台で，ウポポイ（民族共生象徴空間，国立アイヌ民族博物館），昭和新山，洞爺湖，中山峠をまわりました。河地正伸氏に同行していただきましたが，皆さん大変楽しんでいたそうです。また，英語対応できる観光バスガイドを付けたのですが，その方の評判も良かったです。中山峠では，残雪に触れて興奮していた参加者が多数いたようです。

イー・シーには，ウェブサイトの作成，クレジットカード決済システム，登録者リスト・演題リスト作成，問い合わせ対応，ビザ申請書類関係，プログラム･要旨集印刷手配，看板･コングレスバッグ・ネームバッジ作成，当日の受付・運営ディレクター，レセプションや休憩室の飲料・食べ物の手配，集合写真カメラマンの手配等をお願いしました。

補助金については，利用できるものがなく，申請を行うことはありませんでした。企業展示に関しては，そのためのスペースは少なく，また，企業展示を行う場合は利用料が高くなることもあり，企業展示の募集は行いませんでした。

クレジットカードで決済できないことが頻発したのは，大きなトラブルでした。クレジットカードのセキュリティーのために，カードでの支払いができなかったようです。カードが使えなかった方には，銀行振込や PayPal での支払いをしていただきました。

SDGs をテーマにしていたとは言え，補助金がない，メイン会場に横断幕がない，余興がない，同伴者プログラムがない，企業展示がないなど，実は省力のところも多かったです。国際学会も多くありますし，このくらいが持続可能には良いかも知れませんが，皆さんにこれで満足いただけたかどうか気になるところです。

振り返りますと，反省点ばかり思い浮かびますが，当日は大きな問題もなく，無事にフォーラムを終えることができ，安堵しました。これも，ひとえに，準備，運営にご協力いただきました APPA カウンシル，LOC，イー・シー，アルバイト，そして参加者の皆さまのご協力のおかげです。また，プレナリー・レクチャー，ミニシンポジウムのコンビーナー・演者，一般口頭発表の座長，学生発表賞の審査員の方々にも感謝しております。中でも LOC の方々には，準備当初よりご協力いただき，準備状況にご意見をいただいたり，アブストラクトのチェック，座長の推薦や，当日もポスターパネルの設置，会場でのタイムキーパーやマイク係，会場後片付けなどもしていただきましたこと，心より御礼申し上げます。堀口健雄氏，仲田崇志氏，神谷充伸氏，寺田竜太氏，岩滝光儀氏の貢献は多大なものでした。四ツ倉典滋氏にはエクスカーションで，長里千香子氏，市原健介氏にはウェルカム・レセプションで特に貢献していただきました。また，沖野龍文氏，阿部剛史氏にも様々な場面で積極的にご協力いただきました。最後になりましたが，共催になっていただきました日本藻類学会と日本応用藻類学会にお礼申し上げます。

懇親会での APPA 会長 Put Ang, Jr. 氏の挨拶風景

クロージング・セレモニーでの学生発表賞表彰記念撮影

（北海道大学大学院理学研究院）

記：LOC メンバー（敬称略，順不同）
小亀一弘，堀口健雄，阿部剛史，仲田崇志，Kevin C. Wakeman，四ツ倉典滋，沖野龍文，本村泰三，長里千香子，市原健介，秋田晋吾（2023 年 4 月から），岩滝光儀，藤田大介，神谷充伸，河地正伸，山口晴代，保科 亮（2023 年 4 月まで），羽生田岳昭，吉川伸哉，川井浩史，上井進也，星野雅和（2023 年 4 月から），加藤亜記，Gregory N. Nishihara，栗原 暁，寺田竜太，須田彰一郎